

令和5年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)

大阪市立住吉幼稚園

令和6年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

安全・安心な教育の推進の取組では、今までの取組を生かし、新型コロナウイルス感染症対策が緩和されていく状況に合わせて、園内の異年齢の交流を重点的に考えながら、小学校や保育所、地域との交流など、保育の内容を検討して進めていきたい。周りの人との関わりにおいては、幼児の実態把握をし、どのような教師の働きかけが効果的なのかを意見交換しながら、昨年度の課題を元に、各年齢で年間計画を立て、実態に合わせて柔軟に取り組んでいきたい。道徳心・社会性の育成の取組では、集団生活を送る中で、遊びの中で自分の思いを出したり、ルールやきまりを話し合ったりするなど、年齢に合わせて、様々な場面で指導方法を工夫しながら、子どもが主体的に活動できるように、取り組んでいきたい。安全面では、昨年度の視聴覚教材を使った子どもへの安全指導の方法を様生かし、保護者への啓発も含めて取り組みたい。

未来を切り拓く学力・体力の向上の取組では、予測困難な社会状況の中でも、たくましく生き抜く幼児を育てることが求められるため、引き続き、保護者と連携を図りながら、健康的な生活習慣を身につけたり、体を動かして遊ぶ楽しさを感じたりできるように指導方法を考えていきたい。また、今年度も引き続き、園の特色を生かした、自然環境や教育環境に重点を置いて、遊びの中での幼児の実態把握に努め、職員で話し合い、環境を整備したり、指導方法を工夫したりしていきたい。

学びを支える教育環境の充実の取組においては、園芸活動において、保護者とともに取り組めることを取り入れたり、教職員で遊びの中での幼児の学びの姿を捉え、幼稚園教育要領の幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に着目しながら、保護者や地域への情報発信にも努めていきたい。また、指導計画の見直しや検討、園内研修を引き続き行い、保育内容が充実するように取り組んでいきたい。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 90 %以上にする。
- 保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 90 %以上にする。
- 保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るために行動力を身につけることができていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 90 %以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 保護者アンケート調査で「自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけていると思われますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 90 %以上にする。
- 保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 90 %以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めたりしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 90 %以上にする。
- 保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 90 %以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るために行動力を身に付けることができていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で「自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけていると思われますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」「体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めたりしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

保護者アンケートについて、個人の子どもについて捉えているため、幼稚園の取組に対して答えていない方もあるということで、学校協議会で協議し、アンケートの文言を園の取組に注目して答えられるように2学期より変更した。ほとんどの保護者が肯定的な回答となっている。

安全・安心な教育の推進では、年度目標、中期目標を達成することができた。発達年齢に合わせて年間計画を立て、保育に取り組んだことで、安心して自分を出し、教師や友達に自分の思いを出して、幼稚園生活を楽しむことができていた。異年齢での関わりにおいては、日々の生活の中で自然な関わりが多く見られ、互いを気遣う様子が多く見られていた。コロナ禍で関わりが途切れていた地域との関わりが増え、様々な人との関わりをもつことができた。様々な人に見守られているという気持ちをもつことができている子どもが多く、積極的に関わりをもち、自分の思いを表現する子どもが多く見られている。又、安全に関しては、子ども自身が危険について気が付き、周りの友達に知らせている姿が多く見られる。

未来を切り拓く学力・体力の向上では、年度目標、中期目標を達成することができた。保健指導や普段の言葉かけを通して生活習慣が身についてきている。自分でできる反面、適当に済ませてしまう子どもも出てくるので、常に思い出し、習慣が持続するようになる必要がある。広い園庭、空間により、思い切り体を動かして遊ぶ子どもが多い。様々な遊びを取り入れ、挑戦したりできるように継続して取り組んできた。今後も、様々な活動を子どもたちと考えていきたい。

学びを支える教育環境の充実では、年度目標、中期目標を達成することができた。環境の見直しをしながら教職員で連携を取り、状況に合わせて保育に取組み、子どもたちもともに考えて遊びを作り出していったことで、子どもが積極的に関わり、楽しんでいる。今後も子どもと一緒に取組み、ホームページで伝えていきたい。

## 大阪市立住吉幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p> <p>○保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p> <p>○保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るために行動力を身に付けることができていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【2 豊かな心の育成】</b></p> <p>友達や周りの人との関わりをもち、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごせるような保育に取り組む。</p>	A
<p>指標 年間計画（別紙1）を作成し、実施する。</p>	
<p><b>取組内容②【2 豊かな心の育成】</b></p> <p>思いやりの気持ちが育つよう、異年齢や周りの人との交流を年間で継続して行う。</p>	A
<p>指標 幼児の実態に合わせて、異年齢交流を実施し、集会や交流の計画を定期的に話し合いながら、年間計画（別紙2）を立てて進める。</p>	
<p><b>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>安全な生活が送れるように、学校安全計画に基づき、安全指導や避難訓練を計画的に実施し、啓発を図る。</p>	A
<p>指標 年間計画（別紙3）から視聴覚教材（ポスター）を作成し、幼児、保護者に啓発する。</p> <p>安全指導や避難訓練を月に1回、実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>【年度目標について】</b></p> <p>○3学期の保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が98%（思う56%、概ね思う42%）であった。</p>
<p>○3学期の保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が100%（思う58%、概ね思う42%）であった。</p>
<p>○3学期の保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るために行動力を身に付けることができていますか」という関連項目において肯</p>

定的な回答をする割合が98%（思う68%、概ね思う30%）であった。

### 【取組内容について】

①各学年での取組については、別紙1の通りである。

生活や遊びの中で、いろいろな友達と関わり、自分の思いを出したり、友達の様子を分かたりできるよう、子どもの実態に即して援助したことで、一人一人の子どもが安心して過ごす様子が見られる。

【5歳児】園内外のいろいろな方と交流する機会をもつことができた。その中で、自分たちのことを伝えたり、聞いてもらったりして、自分の思いだけでなく、相手の思いにも気付き、どちらも大切にできるよう話をしたり、関わり方を考えたりすることを意識するよう伝えたりしてきたことで、相手の様子に合わせて関わり、思いが通じ合う経験ができた。相手の立場になって考える姿にもつながってきている。また、行事や遊びを通して、目標や目的に向かって難しいことに挑戦したり、努力してできるようになったり、友達と一緒に活動することで協力する楽しさ、満足感や達成感を感じる経験を味わったりすることができた。

【3、4歳児】4歳児は進級した喜び、3歳児は新しい環境への不安を受け止めたり、教師や友達との生活の中で、個別に寄り添ったりしながら丁寧に関わることで、安心して自分を出せるようになった。異年齢や同じクラスの友達との関わりの機会を意識してつくったことで、友達の存在に気付き、教師や友達ということの安心感をもち、年間を通して、安心して一緒に活動する楽しさを味わった。

②今年度は、5月にコロナウイルス感染症が5類に移行され、多くの交流がもてるようになった。

【1学期】異年齢交流を通して、思いやりの気持ちが育つように取り組んだ。5歳児が3歳児の身支度や昼食の準備等の手伝いをしたり、一緒に集会をしたりする中で、5歳児が年長児として優しく接し、自覚をもって接する姿が多く見られた。保育室が隣同士ということもあり、早く顔を覚えることができたことも3歳児が安心して幼稚園の活動に参加したりする要因になった。

【2学期】一緒に体操したり、他の学年の演技や競技を見ることで、応援したり、憧れの気持ちをもつようになった。運動会後は、憧れの気持ちから、3、4歳児が一本歯下駄や竹馬、なわとびなどいろいろなことに挑戦し、5歳児が寄り添い、知らせる姿が見られた。園外保育では、4、5歳児が3歳児の手をつないで引率し、優しく言葉をかける様子が見られ、たくさんの経験が自信となりそれぞれの自覚と優しさが育ってきている。音楽会では各学年や他園の友達と一緒に気持ちを合わせて歌う大切さや心地よさを感じ、保護者の方に見てもらったり、褒めてもらったりすることで充実感や達成感を感じることができた。

【3学期】マラソンや体操を通じて、一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを存分に感じることができた。生活発表会で互いに頑張っている様子を見て、刺激を受けたり、好きな遊びと一緒に遊んだり、お別れ園外保育で一緒に活動を楽しむ中で互いを知る機会を多くもつことができた。

【小学校・保育所】年度当初に年間計画を立て話し合いをし、1～2か月に1回程度連絡協議会をしながらいろいろな交流活動を実施している。保育所とは、同じ年齢の友達に親しみをもって関わったり、触れ合いを楽しんだりできるように、ザリガニ釣りや園庭での好きな遊びと一緒にしたりして交流を楽しむことができた。小学校生活の様子を教えてもらったり、小学校の施設見学や施設利用させてもらったりする機会を多くもつたことで、小学校への親しみの気持ちや就学への意識をもつことにつながった。作品展の見学や音楽交流会への参加など、間近に小学校や小学生の姿にふれる経験や小学校生活の様子を見せてもらい、小学生になる期待をもつことができた。5歳児は、地域の同年代の友達との関わりから、小学生への憧れやともに学校生活を送る友達がほかにたくさんいることを知

り、親しみを感じている様子が見られている。

③年間計画を立て、そのねらいに沿って保育内容・啓発の方法を工夫した。

避難訓練は、定期的に【4月火災、5月火災、6月地震、7月火災（予告なし）、8月交通安全教室、9月大阪880万人避難訓練・引き渡し訓練、10月火災、12月防犯、火災（予告なし）、1月地震、2月火災（予告なし）】を実施した。子どもたちの避難訓練であるが、特に、教職員が安全意識を高められるように、実際の災害発生や危険についてその都度話し合い、その都度、訓練の想定や避難経路等を工夫して、訓練を行った。園内の避難経路の確保のために、避難経路となる場所の整理や片づけを行い、安全への意識をもてるよう日々、気を付けた。安全指導では、年間を通して毎月の目標を設定し、その内容に関する掲示物を子どもたちとつくりたり、写真を撮った自分たちの姿から、いろいろな問題を身近に感じ、より安全に対する意識をもてるよう掲示物を作成し、5歳児が3、4歳児に伝えたり、話し合ったりした。

12月には、養護教諭が、子どもたちのけがを防止する力と危険な場面や場所を察知する力を高めることを目標とし、けがの防止に関する保健指導を行い、その活動を全園児に広げ、安全意識を高める工夫をした。

今後の改善点

①各学年で年間計画を立て保育を実施しているが、今後はさらに多面的な目で見られるように、全教職員で話し合う機会を多くもち、見直しや保育の工夫をしていきたい。

②今年度の異年齢交流は、コロナが緩和されたこともあり地域や他園、小学校との交流が増え、計画的に行うことができた。園内での交流は、一緒に歌を歌ったり、体操やダンスなど楽しんだりしたが、計画通りにいかないこともあったので、毎週の保育打ち合わせで話し合い、進めていきたい。年度途中から、忙しさで保育打ち合わせが取れていなかつたので、来年度は計画通り打ち合わせをしたり、さらにしっかりと教師間の連携をとったりすることが必要である。

③保健指導で遊具の安全な使い方や室内で走らないなどのルールを確認したが、まだ守ることができていない様子を見かけるので、全体への安全指導とともに、個別への継続的な安全指導を続けていきたい。

## 大阪市立住吉幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○保護者アンケート調査で「自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけていると思われますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p> <p>○保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」「体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【5 健やかな体の育成】</b></p> <p>基本的な生活習慣が身につくように、保健指導や指導後の継続した取組を行う。</p> <p><b>指標</b> 実態に合わせた保健指導に取り組む。保健指導後、担任と養護教諭が継続した指導を行い、基本的な生活習慣が身につくようにする。 保健だよりや、健康カレンダー、掲示等を活用し、保護者の啓発に努める。</p>	A
<p><b>取組内容②【3 幼児教育の推進と質の向上】</b></p> <p>幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用し、幼児期の終わりまでに育つてほしい姿に着目しながら、日々の保育計画や指導計画の検討、見直しを行う。</p> <p><b>指標</b> 教職員で共通理解をし、日々の保育計画や指導計画の検討や見直しを行う。</p>	A
<p><b>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>園の特色を生かした自然環境を整備し、考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験ができるように、身近な環境の見直しを行う。</p> <p><b>指標</b> 遊びの環境の見直しや園庭の自然整備の見直しを、月に1回以上行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>【年度目標について】</b></p> <p>○3学期の保護者アンケート調査で「自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけていると思われますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が100%（思う71%、概ね思う29%）であった。</p> <p>○3学期の保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が100%（思う67%、概ね思う33%）であった。 「体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が100%（思う72%、概ね思う28%）であった。</p>

### 【取組内容について】

①日々の幼稚園での子どもたちの様子やけんこうカレンダーの保護者からのコメント、学期末の保護者アンケートから、子どもたちの健康状態や健康課題を把握し、毎月の保健指導に取り入れた。(別紙4参照)特に、10月「目の健康」や1月「やさいをたべよう」では、学期末の保護者アンケートで得た保護者からの意見や要望を取り入れて内容を考えた。また、まだ字が読めない子どもや特別な配慮を要する子どもも保健指導に関心をもつことができるよう、めくったり、触ったりできる視覚的教材を用意した。

各月の保健指導の当日には、降園時に保健指導の内容を保護者に連絡するとともに、園のホームページに保健指導の記事をアップし、家庭啓発、情報発信を行った。保健指導後には、子どもたちへの継続的な言葉かけやトイレ横の掲示板への使用教材の掲示を行い、継続的な指導を行った。また、保健指導の内容を取り入れた、けんこうカレンダーを実施し、家庭での保護者との実践を促した。毎月発行の保健だよりでは、保健指導時の子どもたちの様子や保健指導後の幼稚園での子どもたちの変容、家庭での取組方法などを記載し、保健指導の取り組み内容の情報発信と家庭啓発を行った。家庭で保健指導について話し合う家庭も増えた。

②今年度は、週案の様式を変更し、一週間やその先を見通した計画や、幼稚園教育要領の5領域や就学前教育カリキュラムの知徳体に関連付けた保育のねらいや教師の働きかけを検討しやすいようにした。次週の週案の作成時には、遊びの展開や環境について話をし、共通理解するようにしていった。各学年での取組、園全体での取組などを教職員で共通理解しながら、園内の環境をどのようにして保育を進めていくか、教職員で意見を出し合い、その時の子どもの実態や興味関心を把握して進めた。

具体的な保育内容は、共通認識した子どもの実態と、大阪市立幼稚園教育研究会参考教育課程「世界を拓くなにわっ子」の環境構成のポイント、幼児の生活、教師の教育的意図をもった働きかけなどを参考にして、時期や発達に合わせて、各学年が工夫し、作成していく。3学期、特に意識したことは次のことである。

【3歳児】遊びの中で自分の思いを言葉にして相手に伝えられるようにする

【4歳児】年長児への憧れや期待をもちながら、自分の思いの伝え方を工夫したり、友達の思いを受けとめたりできるようにする

【5歳児】進学に向けて、身の回りの変化に気付き、自分で考えたり工夫したりして行動できるようにすることに教育的意図をもち、働きかけを工夫する

③園の特色である、広い園庭、畑やザリガニ池などを、計画を立てて利用した。

【畑】夏野菜やサツマイモの栽培を行った。今年度は猛暑のため、野菜は育ちにくかったが、サツマイモは予想以上に収穫できた。子どもたちは、遊んでいる間に、水やりをしたり、雑草抜きをしたりし、自然な姿で関わる様子が多く見られた。変化を伝える幼児も多く、一緒に生長を見ていくことができた。畑以外にも、花壇やプランター、鉢植えに野菜や花を植え育ててきた。自分たちが植えた野菜や花が生長し、収穫したことや色水などの遊びに使ったことも大切な経験であった。5歳児は、生長を日記にして書き残していくことで、さらによく見ることにつながった。

運動会後には、冬野菜やチューリップを植えた。冬野菜は苗と種からの違いで、生長に差が出てしまったが、子どもたちと育ちに違いがあることを実際に見ることができた。畑に植えたブロッコリーや豆類は順調に育っているが、プランターに植えた野菜の生長が悪かった。今後は、ジャガイモを植え、来年度の収穫を楽しみにしている。

【ザリガニ池】自園でのザリガニ釣りは5歳児が遊んでいる様子を見て、3歳児がやってみたいと挑戦したり、困っている3歳児に5歳児がコツを知らせたりする様子がみられて

いた。他園の友達や、小学生がザリガニ釣りに来園し、5歳児がザリガニの生態やザリガニ釣りの方法やルールについて知らせ、交流の場として利用した。釣り方やザリガニの持ち方など教えることで、交流が広がり、自信につながった。その後は、他の学年と一緒にザリガニ釣りをする姿も見られ、自信をもって伝えるようになっていた。飼育ケースに入れて、観察し、身近にザリガニの成長や繁殖にも興味をもつことができた。

【田んぼ】5歳児は住吉大社からいただいたお米の苗を田んぼつくりから稲刈りまで経験することができた。また、かかしプロジェクトに参加し、4歳児と合同でかかしを考え作り、かかし「おばけおに」を住吉大社の田んぼに立ててもらい、見学にも行き、田んぼを見る経験ができた。お米の生長に興味をもち、育つ様子を経験できたことは、食育にもつながった。園内で育てた苗は稲刈りをして干し、稻わらをしめ縄にして活用することができた。残りの稻わらは、園内で育てているウサギにも分け、いろいろな活用ができた。

#### 今後の改善点

- ①保護者への啓発として、様々な方法で保健指導の発信を行っているが、3学期末の保健活動についてのアンケートでは、子どもから保健指導の内容を聞いたことがあると答えた保護者は、71.9%と低かった。2学期の結果を受け、降園時に保護者に向けて保健指導の教材の掲示を行ったり、ほけんだよりの記事に写真を多く入れて読みやすいようにしたりして、保護者の目に入りやすいように工夫したことで、割合は増えたが、保護者とともに生活習慣が身につけられるようにすることが必要なので、今後も、さらに保護者の目に止まりやすい発信方法を検討していく必要がある。
- ②今後も参考資料を使いながら、子どもの実態や発達、園内環境に合わせた保育計画や指導計画を検討する。また、教育課程は、今年度の保育内容について、振り返るとともに、来年度以降の保育計画の参考にできるように、複数の教職員の視点から、検討や見直しを行っていきたい。
- ③ファミリー菜園なので、保護者が意識をもって、一緒に野菜の世話ができるよう、保護者に伝える機会を多くもつようにしたり、具体的な野菜の育て方を知らせたりしていくような工夫をする必要があった。冬野菜は生長に差があったり、プランターでは育ち難かったりしたので、もっと野菜について学んでいく必要があると思う。

## 大阪市立住吉幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <b>学校園の年度目標</b> ○保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 ○保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</b> 園庭の自然環境を生かし、子ども、教職員と保護者で連携を取りながら、栽培活動に取り組む。 <b>指標</b> 子どもや保護者の参加の方法を工夫し、ファミリー菜園の活動に取り組む。季節ごとの栽培活動を、計画的に行う。	A
<b>取組内容②【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</b> 保育の充実とともに、保育内容の情報発信に努める。 <b>指標</b> 保育内容について、貼り出したり、ホームページを活用したりして、情報発信に努める。	A
<b>取組内容③【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> 身近な環境に主体的に関わり、考えたり工夫したりして遊んだり、体を動かして遊んだりできるように保育の資質向上に努める。 <b>指標</b> 毎週、遊びの環境の見直しを行い、共通理解をしながら、環境構成の工夫に取り組む。 年間3回以上の園内研修を行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>【年度目標について】</b> ○3学期の保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が、連携については、97%（思う48%、概ね思う49%）、情報発信については、98%（思う59%、概ね思う39%）であった。  ○3学期の保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が91%（思う60%、概ね思う31%）であった。
<b>【取組内容について】</b> ①野菜の生長が分かりやすく、収穫を保護者とともに楽しめるように、一緒に育てたい野

菜を決め、鉢またはプランターを使用して栽培した。降園前や園庭開放の時間を使い、種や苗植え、水やり、収穫まで、保護者と一緒に栽培を行った。また、子どもが自分の野菜に関心をもてるように、扱いやすい大きさのジョウロや水を溜めたたらいを準備し、園庭で遊ぶ中で、水やりができるようにした。子どもたちと意識して育てる時間を多くもつことができた。

夏野菜は、育ちも早く、目で見て生長を感じられ、園庭で目にすることも多いので、保護者と一緒に育ちを見ることが多いかった。持ち帰り、食べたという子どもも多く見られた。しかし、冬野菜は、収穫が遅く、収穫回数も少ないためか、見に行く保護者が少なかった。その他にもみんなの野菜として、夏はスイカやトウモロコシ、冬はブロッコリーとソラマメを畑で、玉ねぎと二十日大根をプランターで育てた。3歳児と4歳児がみんなの野菜を植えたことで、春の収穫を楽しみにしたり、自分たちの野菜という自覚をもち、園庭で遊ぶ中で、野菜の生長の様子を見たり、自ら雑草抜きをしたりする様子が見られた。

冬の花の栽培では、チューリップの球根を鉢に植え、3月以降は、家庭に持ち帰り、保護者と一緒に開花を楽しめるようにしている。

②日々の保育内容は降園時、園全体やクラス毎に保護者へ伝え、子どもの育ちや今後の保育の展開について、理解いただけるように努めている。毎月、園だよりや保健だより、園長室だよりなど、子どもの姿や教師の思いを伝えるようにしている。また、ホームページはいろいろな保育の様子が掲載されるようにし、日々の保育の様子を写真を使って発信している。子どもたちの遊びや生活の様子を、教師の教育的意図や保育の展開、教師の願い等を入れるよう努めて作成し、保育内容を分かりやすく知らせている。園内外の方にも、子どもたちのいきいきと活動する様子を知ってもらい、幼稚園教育について知ってもらえるようにしている。預かり保育参加等で降園時に担任から直接話を聞く機会が少ない保護者からも、ホームページで様子が分かって、日々の保育の連続性で子どもたちの成長を感じられたと、アンケート等でご意見をいただいた。また、見学に来られる未就園児の保護者も楽しそうな様子を見ているというご意見をいただいている。

③各学年で、子どもたちの実態を捉え、体を動かして遊びとなる環境を整えたり、保育内容を取り入れたりし、工夫してきた。

【5歳児】月刊絵本の内容から体づくりを1学期から継続して行ってきた。体のいろいろな部分を意識して動かすことや体の動かし方を自分で、または、友達と一緒に工夫する経験を重ね、遊びの中でバランスや体幹がつくように工夫してきた。また、一人一人が自分なりに目標をもって挑戦したり、得意なことを見つけて取り組んだりできるように、運動会では鉄棒や縄跳びなどいろいろな運動遊びに取り組んだ。3学期は体操やマラソン、ドッジボールなどクラス全体で取り組み、自ら体を動かす心地よさを感じられるようにした。また、3、4歳児も一緒にする機会を設けたりしたりしたこと、友達を誘って一緒に遊ぶ姿や朝から体を動かすことでリズムができ、園生活を楽しめるようになった。

【4歳児】いろいろな運動遊具を使って遊ぶことを楽しめるよう、サーキット遊びを継続して遊んだ。子どもたちがつくったものを取り入れ、それを使って遊べるようにしたり、新しい運動遊具を使ったりして、海のイメージをもって遊んだことが、運動会やこどもてんらんかいへの取組にもつながっていった。5歳児の遊びの様子から、縄跳びやフープの運動遊具に興味をもち、遊ぶ様子が見られた。遊びを見せてもらい、保育に同じ遊びを経験することを取り入れ、クラス全体にも広げ、刺激を受けたり、進級への期待につながったりしてきた。

【3歳児】子どもたちの興味から電車遊びを楽しみ、一人一人が乗って遊べるように段ボール電車や踏切棒などを準備したこと、園内を探検して回り、体を動かして遊ぶ姿につ

ながった。自分で新聞遊びでつくった新聞ボールやステッキを運動会でのリズムにも取り入れ、子どもたちが楽しみながら体を動かすことができるよう保育内容を工夫した。4、5歳児の遊びの様子から憧れをもち、一本歯下駄や長縄跳びに挑戦する子どももいた。2年目教員の『園内研究保育』を6月、10月、1年目養護教諭の『園内研究保育』を1月、指導要請を1月に実施し、保育内容について事前、事後に話し合うなどし、互いに見合ったことで、教師の資質向上につながっている。

#### 今後の改善点

- ①間引きや収穫など、野菜の育て方を保護者に分かりやすいように周知し、収穫をより楽しめるようにするべきだった。教職員の中での栽培に関する共通理解や、保護者への知らせ方を工夫していきたい。
- ②ホームページの更新を引き続き実施し、保護者への理解につなげるとともに、教職員の保育の振り返りにもつなげていきたい。
- ③遊びの環境の見直しや教材研究をしながら、子どもたちが考えたり工夫したりして遊んだり、体を動かして遊んだりできるように、実態に合わせた保育を実施できるよう、今後も研鑽に努めていきたい。次年度は、計画的に園内研究保育を実施できるよう、年間計画を考え取り組みたい。